

勝田主計 しよたかぬし 政治家、俳人。明治三年九月十五日伊豫國松山生れ、
昭和二十二年十月十日歿（二六六一九四）。號萃洲、明庵。明治十六年
松山中學校入學、秋山眞之 あきやまのちか（のち海軍中將）と同窓。上京して第一高等
中學校時代には正岡子規と親交があり、祖母の實兄に當る俳人大原
其戒、金子規を紹介するなどした。また子規の勸むと句作を始める。こ
十八年帝國大學法科大學卒。大藏省入省、理財局長等を経て大正元年
大藏次官、二年貴族院議員。その後朝鮮銀行總裁、藏相、文相等を歴
任。

著書『風雲雷雨』（大正四年六月十一日興風書院）、『たばこ』（合
著・時事新報社編、昭和六年十一月五日時事新報社）、『時句百眼』
（合著・都新聞社編、昭和十四年十一月一日秋豐園出版部）、『萃洲
五百句』（昭和十四年十月十日勝田龍夫刊）等。勝田龍夫（主計の
四男、銀行家）著『中国借款と勝田主計』（昭和四十七年九月二十）
日、ダイヤモンド社）刊。

